平成２４年度 熊谷市自治基本条例審議会 会議概要

Ⅰ　日　時：平成２４年７月２６日（木）午後２時００分から午後４時０７分まで
場　所：熊谷市役所　３０３会議室

Ⅱ　次　第

１　開　会
２　委嘱状の交付
３　市長あいさつ
４　委員の紹介
５　会長・副会長の選出
６　議　事
⑴　市民生活満足度について（資料あり）
⑵　その他
７　閉　会

Ⅲ　委　員

委員区分	氏　名	備　考
第１号	山口　雅功	会　長
	依田　悦代	副会長
	出浦　尚明	（欠席）
	新　　秀明	
	小谷野　操男	
	上村　悦子	
第２号	鈴木　邦明	
	千野　清子	
	駒宮　淳子	

Ⅳ　会議概要

１　開　会

（司会）企画課長

・熊谷市附属機関の会議の公開に関する要綱に基づき、会議の概要を公開することの承認
・会議資料の確認
・欠席者の報告

２　委嘱状の交付

・富岡市長から各委員へ
委嘱状を交付

３　市長あいさつ

４　委員の紹介

・自己紹介により実施

５　会長・副会長の選出

（進行）富岡市長

・熊谷市自治基本条例審議会条例第５条第１項の規定に基づき、委員の互選により決定
会　長：第１号委員　山口雅功委員（立正大学社会福祉学部教授）
副会長：第１号委員　依田悦代委員
・決定後、山口会長、依田副会長から就任のあいさつ

６　議　事

・熊谷市自治基本条例審議会条例第６条第１項の規定に基づき、山口会長が議長となり進行

⑴　市民生活満足度について

（資料：市民生活の現状および満足度についてのアンケート調査報告書）

・事務局から資料について説明
・質疑応答、意見等

・住みやすさについて

（委員）住みやすい、住みにくいという理由としては、生活環境、自然環境が挙げられる。生活環境は個々の家庭の状況によるところがあるが、自然環境については地域全体のことである。その点では、熊谷は恵まれていると感じる。地震や自然災害も被害は少ない。

（委員）自然環境の評価としては、地形、緑、気温など、いろいろな要素があると思う。生活環境については、悪いという回答割合が上がった一方で、

良いという回答割合も上がっているというのは興味深い。

（委員）熊谷の中での地域差、地域特性の違いが大きいことが要因であると思う。生活環境の分析が必要で、それをもとに、どのようなまちをつくりたいかを考える必要がある。

（委員）気温も、街なかと郊外では２℃くらいは違う。街なかは利便性が良いが朝晩も暑い、郊外は朝晩は涼しくなるが利便性に劣る、生活環境の捉え方も違ってくると思う。

（委員）本来は、市の中心として「街なか」があって、そこに行く、集まると楽しいという状態、まちの集積の状態が本来は好ましいと思う。

（委員）緑のあるまち、文化の感じられるまちが、潤いのあるまちへとつながり、魅力のある住んでみたいまちにつながると思う。

・市立女子高跡地について

（委員）市立女子高跡地の計画はどのようになっているか？

（事務局）（仮称）スポーツ・文化村として整備する予定である。旧校舎を、市民団体の利用、埋蔵文化財の展示施設利用、小中高生のスポーツの合宿所として活用することを考えている。

（委員）熊谷には、文化面、特に郷土史の視点で、紹介する施設がなく、厚み、蓄積がないと感じる。

（委員）スポーツ文化公園など、スポーツ施設が充実して、学生の大きな大会も行われているが、宿泊施設がないという参加者の声を聞いたことがある。その点でも、（仮称）スポーツ・文化村には期待したい。

・広報、ＰＲについて

（委員）埼玉県庁で、観光に関するパンフレット類を入手してみた。大きくとりあげられているものとして、「聖天山の国宝指定」（熊谷市）、「のぼうの城の映画」（行田市）があり、別の資料では長瀞町と川越市、また別の資料では、「サイクリングマップ」（本庄市、行田市）が目立ったが、全体としては、川越市が取り上げられたものが多かった。熊谷市の露出が少なかったような印象をもった。

（委員）施設についても、多い、少ないというそれぞれの回答があるが、施設などは、足りないのではなく、利用できるということを広報する機能が弱いと感じる。

・市政への関心、意見について

（委員）市政に関心がないという人というのは、アンケートでの数字に表れた割合のほかに、アンケートに回答しなかった人の割合も考慮しなければならない。政治や暮らし、まちに関心のある人をたくさん生み出していく必要があると思うが、行政から市民への啓発のほかに、学校教育の場は大きな効果があると思う。子どもから父母、家族へ波及していくからだ。また、

子どもがやがて成人となり、家庭をもち、次の世代へとつながる、という中長期的な効果もある。

（委員）パブリックコメント（意見公募手続）は、どのくらいの件数で、どのような結果だったか。

（事務局）パブリックコメントは、昨年度４件について実施し、意見提出は７人から１０７件であった。障害者計画・障害福祉計画について、２人から９４件の意見をいただいた一方、意見ゼロだったものもあった。

（委員）パブリックコメントの存在を知っている人は少ないと感じる。広報媒体に工夫が必要であると思う。

（事務局）パブリックコメントが行われていることを知っている人の割合は、アンケートでは１４．１％と低い数値。この数値を是非上げていきたい。

（委員）市長が行っているハートフル・ミーティングには、市民意見の吸い上げという機能はあるのか。

（事務局）ハートフル・ミーティングとパブリックコメントは目的は異なるが、意見を吸い上げるという機能では同じである。ハートフル・ミーティングは昨年度は２０回実施し、２５８件の意見をいただいている。

（委員）例えば、駅やスーパーなどに意見箱を置くなどして、もっと多くの市民が意見を述べやすくなるようにできたらよいと思う。

・市民満足度調査について

（委員）平成２２年度のアンケート結果の数値だけが、他の年度の数値と比較すると著しく低かったりする結果もあるが、その理由は分かるか？

（事務局）平成２２年度については、単体で行っている市民生活満足度調査ではなく、市民意識調査として大規模に調査したものの一部として組み込んで行ったことが、違いとしてある。そのため、特異値となった可能性がある。

・協働について

（委員）「行政サービス」という言葉自体の意味が一般市民にとっては難しい。市役所が市民の生活のどの部分に関わっているかが理解できれば、一人ひとりが市政について考える自覚をもつし、自治基本条例にうたう協働へのきっかけになると思う。

（委員）行政の職員も、例えば自治会の会合などに、行政職員としてではなく市民として参加してほしい。

（事務局）本日欠席の委員からも、市職員も自己研鑽の意味から地域活動に積極的に参加をという意見をこの会議に先立ちいただいているので紹介する。

７　閉　会